平成25年8月号

いやしのひととき

千代田日記

～ちよだにっき～

今月のごあいさつ

暑い日が続きますが、皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、８月は各地で花火大会が催されます。東京では隅田川の花火が有名ですが、花火そのものの大きさ、迫力では今ひとつです。なぜなら、大都会の中心部で開催されるため、安全上、航空法上の様々な規制があり、大きな尺玉を打ち上げられないからです。

アベノミクスの第三の矢は成長戦略です。その中で重要なのが規制緩和です。花火大会のような安全を確保するための規制は緩和されると困りますが、既得権益を守るためだけの本当に必要なの？という規制（賛否両論ありましたが、薬のネット販売解禁等）がたくさんあります。安倍首相が今後そこにどこまで切り込んいけるかが焦点です。

アベノミクスの成否は、為替や株価と同様、ゴールドの価格に影響を与える要因の一つです。

今後、規制緩和がどのように進むのか注目して頂ければと思います。

追伸

お勧めの花火大会は、ＰＬの花火（大阪）です。一時よりも規模は縮小されましたが、それでも日本一の規模だと思います。大混雑覚悟で一度見物に出かけられる事をお薦めします。

ご存知ですか？

千代田のお城「江戸城」

東京都千代田区千代田にある江戸城は武蔵国豊嶋郡江戸にあった城で、江戸時代には江城（こうじょう）という呼び名が一般的だったといわれています。また、千代田城とも呼ばれていたそうです。

この江戸の歴史は古く最初に根拠地を置いた武家は江戸重継で、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて今の本丸・二の丸辺りの台地に江戸氏の居館があったようです。その後、十五世紀の関東騒乱で江戸氏が没落、扇谷上杉氏の家臣である大田道灌が一四五七（長禄元）年に江戸城を築城し、これが江戸城の始めとされています。

道灌が殺害された後、江戸城は上杉氏の所有するところとなり、その上杉氏も北条氏に敗れ、北条氏綱の支配下になりました。お城の南側には品川湊があり、さらにその南には六浦（金沢）を経て鎌倉に至る水陸交通路があったことから関東内陸部から利根川・荒川を経て品川・鎌倉に向かうための交通路の掌握のために重要な役割を果たしたと考えられます。

その後、豊臣秀吉による小田原攻めの際に開城。秀吉によって関八州に転封された徳川家康の居城となり、家康が公式に江戸城に入城したのが旧暦の８月１日（八月朔日、八朔）で、現在の暦だと８月３０日です。このため江戸時代には、この日はお正月に次ぐ祝日として祝われていました。

暮らしの足し算

人気スタイリストが選ぶ「あなたのための一足」

ネット通販を活用した新しいビジネスがどんどん登場しています。そのひとつが「定期購入サービス」です。

頒布会のように毎月決まった金額を払うと色々な商品が届く仕組みですが、定期購入サービスの商品は従来の頒布会とちょっと違います。なんと、その道の専門家が厳選した商品が送られてくるのです。または、あらかじめ自分の趣味や嗜好などの簡単な質問に答えておくことで、自分のテイストに合った商品が届くサービスもあります。

始まりはアメリカですが、今では日本でも様々なサービスが盛んです。1500円でプレミアムコスメサンプルが届く「GlossyBox(グロッシー・ボックス)」。若手農家集団「トラ男」が手がけたお米が毎月届く「トラ男一家」(2500円〜/月)。スパイス、ファッション、コーヒーなど各分野の専門家が選ぶ商品が届く「HATCH(ハッチ)」。特におすすめは、人気スタイリストが靴を選んでくれる「style pick(スタイル・ピック)」です。

無料診断で好みの写真をいくつか選んでおくと、毎月プロのスタイリストが自分に合った靴をメールで提案してくれます。値段はお手頃な税込3980円。頒布会と違って毎月必ず買う必要はなく、おすすめが気に入ったら購入します。オシャレのセンスに自信がなくても、自分専用のスタイリストがついている気分で買い物できますね。

なごみひとさじ

「やれること」と、
「やらなければいけないこと」は、
やらなくていい。

——中谷彰宏(作家・エッセイスト)

「やれること」と、「やらなければいけないこと」は、やらなくていい——。これはどういう意味だと思いますか。中谷彰宏さんの言葉は次のように続きます。

「今までの人生で、『やりたいこと』を後回しにしてきたから、『やりたいこと』を見失ってしまっているのです。『やりたいこと』を、やろう。」

「やれること」をやるのは簡単なのでやります。「やらなくてはいけないこと」は必要に迫られてやります。そうやっていれば時間は過ぎて、何もしていないわけではないのでそれなりに充実している気がします。けれど人生は一度きりです。今日という日は一日だけです。本当に自分が「やりたいこと」は、一体いつやるのでしょう。

「やりたいこと」をしていれば人をとやかく言うヒマはありません。花を飾るとか空を見上げるとか、どんなに小さなことでもいいので「やりたいこと」をやって自分で自分を楽しませましょう。「やりたいこと」が見つからないなら、何をしているときがいちばん楽しいか、そこから考えてみませんか。

おいしい毎日のススメ

落語のススメ

最近、落語に興味を持ったり寄席に行ったりする女性が増えているそうです。きっかけのひとつは雲田はるこさんのマンガ『昭和元禄落語心中』（講談社）。刑務所で服役中だった元ヤクザの与太郎は、落語慰問会で聞いた八雲師匠の落語が忘れられず、出所と同時に押しかけて弟子入りを志願する「与太郎放浪編」から物語は始まります。

作者自身が落語好きとあって作中に落語がちゃんと描かれており、落語初心者の読者でも、同じく落語初心者の与太郎が落語の魅力にはまっていくところは大いに共感できるでしょう。読みながら「今すぐ寄席に行きたい！」と思う人も多いようです。

今、披露されている落語のネタは、江戸時代から変わらない話も多いそうです。ネタの多くは「ダメな人やしょうがない人を笑い飛ばそうよ」という雰囲気がある一方で、権力者に反発する噺（はなし）もあります。徳川将軍が日本を統治していた時代もデジタル全盛の現代でも、人は同じところで笑い、同じところで泣き、同じところに「粋」や「人情」を感じるのでしょう。なぜなら、落語が描くのは人の心をつかむ普遍のテーマだからです。

しかも歌舞伎などの伝統芸能と違い、落語は身振りと手振りのみで噺を進め、一人何役も演じます。衣装や舞台装置などは極力使わず、演者の技巧と聴き手の想像力で噺の世界が広がっていきます。そんなシンプルさも落語の魅力と言えそうです。

泣いて笑ってほろりとさせられて、落語を聞くとダイナミックに感情を揺さぶられますが、同時に会話の持ち言葉が増えてコミュニケーション能力が上がったり、話の組み立て方が上手になったりするようです。落語には起承転結があります。落語に親しむうちに、自分の話でも自然と起承転結を作るのがうまくなっても不思議ではありません。

また、ひとりで何役も演じる落語は、聞いてる人の興味を最後まで引きつけておくために声の大きさ、抑揚のつけ方、間のとり方、視線の持っていき方などに工夫を凝らしています。落語を聞いて営業トークを勉強する営業マンがいるそうですが、確かに話術のスキルは身につきそうです。

ユーチューブで「落語」と検索すると、色々な噺家の様々な演目がヒットします。もしくは、立川談笑師匠の「落語ってこんなに楽しい！初心者向け落語入門講座」で、まずは落語の楽しみ方に触れてみるのも良さそうです。

泣いて笑って感動して、落語パワーで残暑を乗り切りましょう。

心得の教科書

ワインの値段の目安

レストランでのワインのオーダーは難しいものです。銘柄や味、ワインの特徴やお料理との相性はお店の人やソムリエに聞けますが、どの程度の値段にするかは迷いどころです。値段の目安は次のうちどれでしょう。

【A】料理の総額の半分程度
【B】料理の総額と同額程度
【C】料理の総額の倍程度

レストランはお料理メインで楽しむ場所です。ワインだけのことを考えてオーダーするのは失礼に当たるそうです。ワインの値段はお料理の総額の3分の1から半額程度を目安にするといいでしょう。というわけで答えは【A】です。

たとえば二人で2万円のお料理をオーダーしたら、ワインは7千円から1万円程度のものを頼みましょう。もちろんこれは目安です。ワインメインで楽しむ席などでは、ワイン通やソムリエのアドバイスを受けながら色々なワインをお楽しみください。

余談ですが、「このワインは高いです」と言われてから飲むとおいしく感じてしまうのが人間の脳の特徴だそうです。

学び直しの日本語クイズ

「苦渋」と「苦汁」

次の文章はどちらが正しいでしょう。

【1】苦汁をなめる　／　苦渋をなめる
【2】苦汁を味わう　／　苦渋を味わう
【3】苦汁を飲まされる　／　苦渋を飲まされる
【4】苦汁の決断　／　苦渋の決断
【5】苦汁に満ちた顔　／　苦渋に満ちた顔

【苦汁】文字通り「苦（にが）い汁」から転じた苦い経験のこと
【苦渋】心の苦しみや苦しみ悩むこと
【1】正しいのは「苦汁をなめる」
【2】正しいのは「苦渋を味わう」
【3】正しいのは「苦汁を飲まされる」
【4】正しいのは「苦渋の決断」
【5】正しいのは「苦渋に満ちた顔」

「苦汁」はなめたり飲まされたりしますが、苦い汁なので味わいたくはないですね。